

千里ライフサイエンスフォーラム開催のお知らせ

2024年11月フォーラム(第372回)

- **開催日時**：2024年11月19日(火) 18時00分～19時00分
※終了後19時00分～20時00分に懇親会を実施します。
- **開催形式**：千里ライフサイエンスセンタービル6F 千里ルームAにて会場参加と講演収録。後日約1カ月録画配信
- **配信対象**：千里ライフサイエンスクラブ会員(年会費2,000円)
会員以外の皆様にもお申込みいただければ3日間限定で録画配信
- **講師**：権藤 恭之 先生
大阪大学大学院人間科学研究科 臨床死生学・老年行動学講座 教授
- **テーマ**：「人生100年を生きる」
- **講演要旨**：

日本は、人生100年時代と言われるように長寿をおう歌できる時代になった。しかし、一方で老いることへの抵抗感は強い。ある機関の調査によると日本人は100歳まで生きたいと思う人の割合が他の国々と比較して顕著に低い。この乖離をどう考えればよいのか。近年、老年心理学ではステレオタイプ内在化仮説が注目されている。この仮説では加齢に対してポジティブなステレオタイプを持っている方が、健康を維持しやすく余命が長いとされる。人生100年時代の日本にこそ加齢に対するポジティブなイメージが求められるのではないだろうか。

ピンピンコロリは誰しもが目標とする理想的な老いと死の姿だといえる。しかし、人生100年時代にピンピンコロリを達成できる人は限られている。つまり、人生100年時代においてはピンピンコロリではない老いの在り方を模索することが加齢に対するポジティブなステレオタイプの醸成に必要となる。

講演者は、心理学を中心に高齢期の加齢研究に携わってきた。中でも高齢期から超高齢期にかけて発達すると考えられている「老年的超越」に注目し、「老年的超越」は、高齢期に発達すること、超高齢期の虚弱に適応するための重要な心理的要因であることを報告してきた。本講演では、これまでの研究成果から人生100年時代をしあわせに生きるために、ピンピンコロリ一辺倒の目標だけでなく、フニャフニャスルリと呼ぶべき、虚弱を楽しめる高齢期の在り方も模索する必要性を提案したい。

- **講師プロフィール**：

学歴：関西学院大学文学部博士課程後期課程

職歴：東京都老人総合研究所（現東京都健康長寿医療センター研究所）

専門分野：高齢者心理学、老年学

主なる著書：100歳は世界をどう見ているのか—データで読み解く「老年的超越」の謎

主なる講演テーマ：高齢者の心理、超高齢期の適応としあわせ、性格特性と長寿、生活文脈と高齢期の認知機能

参加対象/参加費：千里ライフサイエンスクラブ会員(年会費2,000円)/ 無料

録画配信希望のお申込はご不要です。

会員以外の皆様にもお申込みいただければ3日間限定で録画配信

録画配信の準備が整い次第、視聴方法の案内メールを送らせていただきます。

申込先：公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団「千里ライフサイエンスフォーラム」担当

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 Tel：06-6873-2006 Fax：06-6873-2002

E-mail：srlf-forum@senri-life.or.jp (HP：<https://www.senri-life.or.jp/>)